

季節のおたより

2020年7月 夏号 年5回発行・No.13

新緑の輝き、雨の恵み、そして太陽のまぶしい夏がやってきます。今年子どもたちにとっては短い夏になりそうですね。スウェーデンひつじの詩舎では子どもたちの成長に合わせた、いろいろなサイズのお人形キットをご用意しています。一つひとつが丁寧に手作りされ、子供たちの心にずっと寄り添うお人形であってほしいと願っています。

「抱き人形」ヴェロア・コーデロイ



抱き人形は、ウォドルフ人形B体と同じ身長(30cm)ですが、羊毛がふんわりと詰められているので、乳幼児期のお子様にもちょうどよい柔らかさと大きさです。抱っこしたりおんぶしたり、どこへ行くにも一緒に仲良しのお友達になってくれることでしょう。

ボディーの布は、やわらかく肌触りの良いヴェロアと、伸縮性がなくしっかりとしたコーデロイから選べます。

選んだ色や布によってお人形の個性も豊かになります。どんな色で、どんな性格のお友達ができるのか、色選びも楽しみですね。



コーデロイの色見本
ご注文の際は色見本の名前をお知らせください。ヴェロアの色見本はHPをご覧ください。



「抱き人形」30cm
価格：3,300円(税別)

※こげ茶としろは、太いうねのコーデロイです

「はいはい人形」

今にもはいはいしそうな、手のひらにおさまるお人形は、「はいはい」「おすわり」「おねんね」と3つのポーズから選んで作ることができます。

赤ちゃんがにぎにぎして遊ぶのにもちょうどよい大きさです。

髪型やポーズを工夫してたくさん作ってみたくなった時には、ペロアの色が3色選べる、

「小さな人形のための特別セット」
価格 10,180円(税別) もおすすめです。



「はいはい人形」13cm
価格：1,440円(税別)

～「大すきなウォドルフ人形」写真館より～

10月26日は「ウォドルフ人形の日」です。本の初版日を記念日としてお祝いし、昨年は皆様より写真を募集しました。ご応募いただいた写真からご紹介させていただきます。写真館は今年度も開催予定です。どうぞお楽しみに。



1歳を過ぎた息子に、手作りのお人形を作ってあげたいと思いました。“喜んでくれるかな” “どんな風に関わってくれるのかな”と想像しながら作るのは幸せな時間でした。2歳になり、お人形のさくらちゃんとはとても仲良しで、ご飯を食べさせてあげたり、お着替えさせたり、一緒に遊んでくれてとても嬉しいです。(伊藤藍子さん)

次男1歳のお誕生日に抱き人形をプレゼントしました。

毎日手や顔を食べてりもしていますが、優しく抱っこしたり、とても仲良しです。(和田聡美さん)



*ウォドルフ人形に会いに行こう！
作品展のお知らせ*

♥ウォドルフ人形と一緒に夏休み2020

日時：7月23日(木)～8月17日(月)

場所：Lini Atelier Shop(長野県北佐久郡長倉3038-3
10:00～17:00 火曜日定休)

一般社団法人 スウェーデンひつじの詩舎 スペース ペレのあたらしいふく



〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘15-2

Tel:045-881-6900 Fax:045-881-6665

*<http://www.s-hitsuji.co.jp/> *ブログ・FBもご覧ください。

お家でできる

たのしい手仕事 No.1

もうすぐ夏休み、家の周りを散歩した時や、どこかに出かけて見つけた素敵な思い出を集めながら、壁飾りを作ってみませんか。

《材 料》

木の枝 (20~25 cm)、少し硬い草、ラベンダーやローズマリーなどのハーブ、タコ糸、紐や糸、リボン、厚紙 (1.5 cm幅) など
※植物はそのまま飾ってドライフラワーになるようなものを選ぶのが良いでしょう。



《作り方》

- 木の枝4本を組み合わせ、それぞれの交差した点を糸で結び、枠を作る。
- タコ糸を縦に 1 cm間隔で張る。はじめに下の枝に結んでから上の枝に2周巻きつけ、下にも同じように巻きつける。縦糸が偶数になるようにして最後は枝に結び (写真は10本)
- 1.5 cm幅の厚紙を縦糸に上・下となるように通す。
(最後に外すか、隙間なく編む)
- 縦糸に対して上・下・上・下と交互になるように横糸を通していく。通すものは紐、糸、リボン、ハーブやドライフラワーなどの植物を自由に織り込んでみましょう。
- 脇を整え、紐を付けそのまま吊して飾る。
貝殻や、セミの抜け殻など夏の思い出を上から張り付けて仕上げるのも素敵ですね。



「自然の中で育つもの」

シュタイナー教育の視点から No.5

乳幼児の大きな課題は、自分の体を育むこと。生まれた時に両親からいただいた体を、一生住み続ける自分の家に作り変えていくプロセスです。それぞれの器官がその本来の機能を持つように、本来の形へと形成されていきます。感覚器官の育成は、この体づくりの中でもとても大切です。

スマホ、タブレット、テレビなどのメディア機器のスクリーンやスピーカーを通しての体験が「間接」であるのに対して、感覚体験は「直接」です。直接、触り、見て、耳を澄まし、嗅ぎ、味わうことなどを通して、それぞれの感覚器官は育まれていきます。直接、感覚器官を通して出会うことによって、出会ったものの「質」を体験します。子どもの年齢が低いほど、出会ったものと一心同体となります。感覚を通し、ものごとの「質」と出会うことによってこそ、その子どもの身体的、心的、精神的な、自分の「質」が育っていくのです。

何を見るかによって視覚が、何を聴くかによって聴覚が、何を食べるかによって味覚が育まれます。乳幼児期の感覚体験、そして感覚体験のフィールドである環境は、子どもの成長発達にとっても大きな影響を及ぼします。そして私たちの周りの自然界は、豊かな感覚体験ができるフィールドです。

泥だらけになって遊び、色々な素材を集めてきて基地を作り、野山を駆け回り、美しく咲いたたくさんの花を見て、様々な花の香りと出会い、ミミズやダンゴムシと戯れ、きれいな蝶を追いかけて、鳥のさえずりに耳を傾け、雲や虹、風やそして1日の中の朝、昼、夕方の違う質や、季節の巡りを体験してと、挙げていくときはありません。子どもは生活や遊びの中で、大人とは全く異なる仕方で、自然界の法則、物理学、生物学、化学、天文学などを自主的に学び、身につけていきます。そこには自然の4つの要素、地水火風との出会いがあります。

子どもの傍にいる私たち大人は、子どもたちに自然についていろいろと説明したり教えたりするのでなく、子どもたちが自主的に活動できる自然を直接体験できる環境を用意することをしましょう。私たち自身が自然と触れ合い、美しい、美味しい、気持ちよと感じたり、驚いたりできることもとても大切です。大人は子どものお手本ですから。コロナの影響はまだ続いています。夏の時期、子どもたちはもちろん、私たち大人も、自然の中の素晴らしいものごとと直接出会えるといいですね。

2020年7月 吉良 創

プロフィール・吉良 創 (きははじめ)

1962年生まれ、自由学園卒。ヴァルドルフ幼稚園教員養成ゼミナール(ドイツ、ヴィッテン)修了。
滝山しおん保育園園長、南沢シュタイナー子ども園理事、日本シュタイナー幼児教育協会理事、ライアー響会代表。国内外でシュタイナー教育、ライアーに関する講座、講演、コンサート、執筆などを行っている。